

概要報告

CITES 掲載種分類学能力構築

(1) 開催概要

1. 開催日時：平成 29 年 1 月 31 日～2 月 3 日
2. 開催場所：マレーシア・クアラルンプール
3. 研修生：ASEAN 諸国 9 カ国及びモンゴルから計 23 名
4. 講師（4 名）：
 - ・ Dr. Amir Hamidy (Research Center for Biology, Indonesian Institute of Science, Indonesia)
 - ・ Dr. Rod Hay (Science Advisor, Research and Education, Department of Conservation, New Zealand)
 - ・ Ms. Ann Panoho (International Wildlife Enforcement and Training Adviser, New Zealand)
 - ・ Ms. Alicia Hartmann (Environmental Security Sub-Directorate, Interpol, Singapore)
 - ・ Mr. Muhammad Aminurashid Bin Ahmad (Executive, Education Department, Zoo Negara, Malaysia)

(2) 研修の背景及び目的

東・東南アジア生物多様性情報イニシアティブ (ESABII ; East and Southeast Asia Biodiversity Information Initiative) の取組として、東・東南アジア地域を対象に、過去の業務成果を踏まえ、ワシントン条約 (CITES) 附属書掲載種の違法取引防止に必要な分類学能力構築のための講師養成研修 (ToT ; Training of Trainers) を実施するものである。

豊富かつ貴重な生物多様性を有する ASEAN 地域及びモンゴルにおいてはその保全を推進するための人材育成が依然として不十分であり、加えて、自国で研修を実施できる人材を養成したいとの要望が ASEAN 各国等から多く寄せられていることから、本研修においては、研修を自ら計画・実施できるような講師を育成することを目的とする。

1 日目

研修初日の開会式では、講師の Rod Hay 氏、Ann Panoho 氏及び Amir Hamidy 氏の 3 名が挨拶した後、主催者である環境省生物多様性センター・平野美澄氏が、充実した研修になるよう期待する旨を述べるとともに、事務局として ESABII の概要を紹介した。

開会式終了後、アイスブレイクとして各参加者の挨拶を兼ねた自己紹介の時間が設けられ、また、Rod Hay 氏により各参加者の理解度を把握するための事前アンケートが行われた。その後、元 CITES 事務局職員である CITES 専門家の Rod Hay 氏及び Ann Panoho 氏による講義では、受講生が自国で CITES 研修を実現するにあたっての基本原則や心得のほか、CITES の附属書や取組に関する概要の説明がなされた。

午後の CITES 専門家による講義では、CITES に関して詳しく掘り下げ、制度的枠組みや附属書の構成及び使用方法、野生生物の取引許可、実際の手続き等に関する解説がなされた。講義の進行は、主に Rod Hay 氏の説明に適宜 Ann Panoho 氏がコメントを入れるというスタイルがとられ、受講生が自国で取り扱った CITES に関する事例や経験について適宜共有・議論した。

2 日目

翌日に実施予定のフィールド研修を意識したアジェンダが組まれた。LIPI から招聘した動物専門家の Amir Hamidy 氏による講義では、CITES 附属書に記載されている両生・爬虫類の識別や分類に関し、容易に理解できるよう豊富な画像を用いた説明がなされた。続いて、Rod Hay 氏及び Ann Panoho 氏の講義では、マレーシアの CITES 事務所から借り受けた密輸摘発品の特徴について解説があり、また、配布資料の写真にある生物種が CITES 附属書掲載種であるかどうか判別する実習をグループワーク形式で実施したほか、映像を用いながら違法取引の原因や密輸の実態が説明された。

午後には、Amir Hamidy 氏が午前中の講義に引き続き、東南アジアで頻繁に違法取引される両生・爬虫類に関する詳しい分類を解説した後、各国における取引状況を受講生の間で情報共有した。その後の Ann Panoho 氏による講義では、密輸者の識別方法及び取締り事例が示され、自国において想定される密輸者の特徴について受講生がそれぞれ検討・発表した。

3 日目

フィールド研修として、参加者全員で国立動物園 (Zoo Negara) を 1 日訪問した。動物園スタッフによる施設紹介や研究体制等に関する紹介があった後、研究室内にて Amir Hamidy 氏や同園スタッフによる解説のもと、ヘビやカメ等の爬虫類の生体を用いた実習を実施し、活発な質疑応答を行った。

なお、同園の爬虫類専門館は昨年度に引き続き工事中であったため、研究室内に生体を持ち込んでの実習となった。また、園内の他の動物施設や水族館においても生体を観察し、適宜、専門家らが解説した。

4 日目

Ann Panoho 氏の講義では、より実践的な密輸対策が取り上げられ、受講生から活発な質問が飛び交うとともに各国の事情が共有された。また、Ann Panoho 氏の紹介により、インターポールにて密輸等の犯罪防止や関連する情報提供を担当する Alicia Hartmann 氏の講

義が行われ、インターポールの仕組みや国際的なネットワークの活用に関する説明がなされた。最後の研修課題では、受講生が将来的に自国で実施する研修のシミュレーションを目的とし、今回の研修で学習した内容を踏まえ、各自で研修プランを検討・作成・発表した。また、受講生同士でお互いのプランを共有し、各自のプランの見直しや改善も図られた。

閉会式では、主催者である環境省生物多様性センターから廣澤一氏が挨拶し、講師及び協力者へ謝辞を述べた後、すべての受講生に対し、今回の研修内容及び資料を有効活用しつつ、自国にて研修を継続的に計画・実施営することを強く希望すると述べた。

最後に参加者に対して廣澤氏から研修終了証が授与されるとともに、本研修で使用された教材、講義資料及び写真等を電子データとして配布し、閉会した。

